

Isagai Lab.

**続ICT技術人材育成の現状と課題
地域情報化における人材育成
ー地域情報化は新しいステージへー**

2008年6月20日

慶應義塾大学総合政策学部准教授
NPO鳳雛塾副理事長(ファウンダー)
飯盛義徳、Ph.D.
isagai@sfc.keio.ac.jp

Yoshinori Isagai 2

Isagai Lab.

自己紹介

- 飯盛義徳(いさがいよしのり)、経営学博士(Ph.D.)
 - 慶應義塾大学総合政策学部 准教授 兼 政策・メディア研究科委員
 - NPO法人鳳雛塾 副理事長(ファウンダー)
 - 総務省地域情報化アドバイザー委員、総務省過疎問題懇談会委員など
- 略歴
 - 1964年 佐賀市生まれ
 - 1983年 長崎私立青雲高等学校卒業
 - 1987年 上智大学文学部卒業(体育会陸上競技部副将、体育会本部情宣部長)
 - 1987年 松下電器産業(株)入社。富士通(株)出向などを経て、国際商事本部にて海外ITベンチャー企業のシステム輸入開発事業に従事
 - 1992年 慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程入学
 - 1994年 同校修了後、飯盛教材株式会社入社
 - 1997年 常務取締役就任
 - 1999年 佐賀大学理工学部客附講座客員助教授
 - 1999年 アントルプレナー育成スクール「鳳雛塾」設立
 - 1999年 佐賀県総合開発審議会委員、九州北部学術研究都市整備構想懇話会委員、佐賀県商工・観光アクションプラン策定委員会委員ほか
 - 2001年 (有)EtherGuy設立、代表取締役
 - 2002年 慶應義塾大学大学院経営管理研究科博士課程入学
 - 2004年 CREA Partners株式会社取締役就任
 - 2005年 慶應義塾大学環境情報学部専任講師就任
 - 2008年 慶應義塾大学総合政策学部准教授就任

Yoshinori Isagai 2

Isagai Lab.

内容

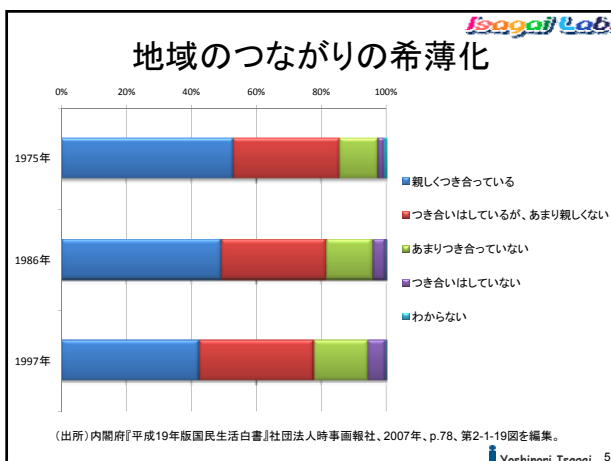
- 地域情報化プロジェクトの台頭
- 鳳雛塾の挑戦
- 人材育成のプラットフォーム
- 東峰村での取り組み
- 今後の展開

Yoshinori Isagai 3

Isagai Lab.

地域情報化プロジェクトの台頭

Yoshinori Isagai

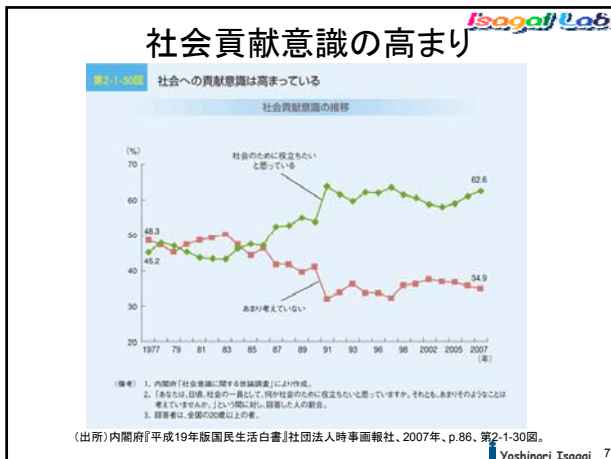


Isagai Lab.

つながり希薄化の要因

- 意識の変化
 - 深い近隣関係を望まず、助け合う関係は重視
- サラリーマン化
 - 自営業者などは助け合う人が多数
- 単身世帯の増加
 - 単身世帯は地域での交際が希薄
- 居住環境
 - 賃貸共同住宅の住民の居住年数の少なさ

Yoshinori Isagai 6



背景

- 近代化の進展とともに、講や寄り合いなどの地縁、血縁をベースとした地域における問題解決の場(例えば、三夜待)が機能不全
- 「地方の時代」が提唱されたものの、自治体の財政状況も厳しくなり、地域はますます疲弊
- 1995年以降、地域情報化への関心が高まり、情報基盤整備、電子自治体などに注目
- 2000年以降、ブロードバンドの急速な普及に伴い、情報技術を駆使して、人や組織の新しいつながりをもたらし、地域の問題解決を目指す地域情報化プロジェクト(飯盛、2006)が勃興

地域情報化プロジェクトへの注目

- 2004年、総務省の「地域における情報化の推進に関する検討会」に「住民サービスワーキンググループ」設置
 - 総務省「地域における情報化の推進に関する検討会 住民サービスワーキンググループ 中間取りまとめ」
- 2003年、さまざまな分野で成果をあげている地域情報化プロジェクトの活動を広く紹介し、顕彰する日経地域情報化大賞がスタート
 - [日経地域情報化大賞](#)、[地域情報化の現場から](#)

しかし、一定期間継続して、成果があがっている地域情報化プロジェクトは僅か

鳳雛塾の挑戦

背景

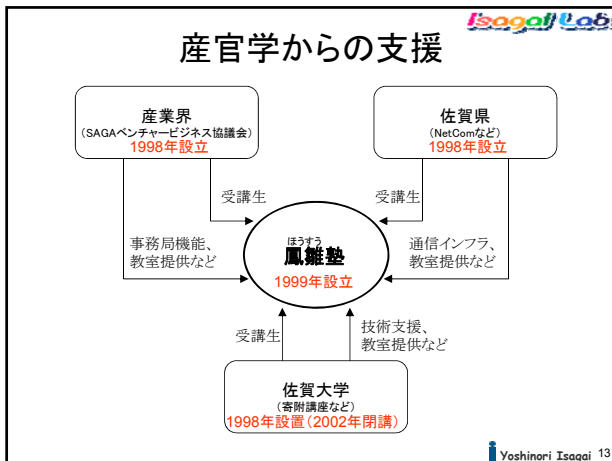
- 地域経済の状況
 - 中小企業、商店街、伝統産業など景況感の悪化
- 地域経済の課題
 - 助成など充実してきたもののプレーヤ不足
 - 競争と協調をもたらすコミュニティの欠如

→ 制度の導入と同時に人材育成が不可欠
→ 企業にも自治体にもできないことに挑戦

情報技術、ケースメソッドを活用した地域のアントルプレナー育成の模索

概要

- 設立：1999年(2005年7月NPO化)
 - 理事長：指山弘養(佐賀銀行会長)
 - 副理事長：飯盛義徳(ファウンダー)
 - 事務局長：横尾敏史(佐賀銀行)
- ミッション：鳳雛(未来の英雄)を育む
- 塾生：約300名(2007年3月まで)
- 運営
 - スタッフ：専任講師2名、助手1名、事務局1名
 - 年間運営予算：約30万円
 - ・ 2005年度からは経済産業省より1200万円の助成
 - 年間約16回(月に2回)の授業
 - 年間受講料：社会人1万円、学生5千円

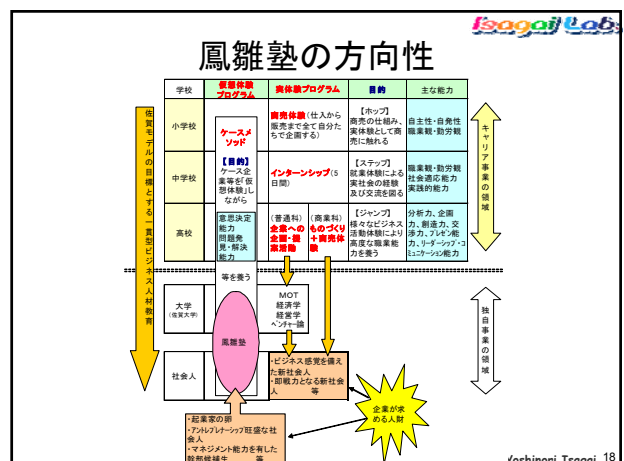


- ### 特徴
- ケースメソッドの導入
 - ケース教材(デジタル映像教材)の独自開発
 - オープンポリシー
 - 多彩な方々が机を並べて議論
 - ・ 若手企業家だけでなく、行政、教員、議員、マスコミ、高校生も参加
 - ・ 毎回OBや塾生の知り合いが参加
 - 授業後は必ず交流会(佐賀銀行社員食堂など)
 - 情報技術の積極的利用
 - ネットで連絡、課題、議論、教材提供
 - 遠隔授業の実践 (2002年度から月に1回)

ケース教材の自作、デジタル化

- 地元企業事例を中心とした教材を10部開発
 - 希少な地方企業、創業事例
 - 4部は映像付デジタル教材として公開

- ### 成果
- ベンチャー、NPO起業など
 - 佐賀県産業ビジネス大賞受賞
 - 中小企業創造活動促進法認定
 - NPO起業
 - 衆議院議員当選
 - 情報技術(Gigaビットネットワーク、IPv6など)研究
 - 新事業、他地域への広がり
 - 小学生から高校生向けのアントルプレナー教育(キャリア教育事業)など
 - 富山、藤沢、石川、丹波などに伝播
 - 大学教育への広がり
- ★2003年日経地域情報化大賞日本経済新聞社賞受賞



Isagai Lab

つながりの広がり

- 富山と越前同盟締結 (2004年8月)
 - インターネット市民塾のノウハウ共有
 - 富山鳳雛塾設立 (鳳雛塾のノウハウ共有)
 - 富山の企業のケース教材開発、共有
- 藤沢鳳雛塾の設立 (2005年7月)
- 丹波、横浜などで設立検討中
 - ケースリーダー育成プロジェクト、ケース開発プロジェクト (MOT) との緊密な連携

各地域との教材共有や遠隔授業など資源共有の推進

Yoshinori Isagai 19

Isagai Lab

佐賀と富山との盟約式 (2004年8月)



Yoshinori Isagai 20

Isagai Lab

越前同盟盟約書



Yoshinori Isagai 21

Isagai Lab

石川経営天書塾



Yoshinori Isagai 22

Isagai Lab

大学での推進プロジェクト (一部)

- 高校生へのアントルプレナー育成教材開発、授業実践
 - 佐賀、高知、和歌山など
- 地域再生
 - 高知県、東峰村、石川県 (伝統産業) など
- 地域活性化と人材育成
 - SFCが中心となった、各地の大学とのコンソーシアム
- 地域情報化 (APPLIC)
 - 各地の地域情報化プロジェクトへの支援 (松山市、京丹後市など)
- 藤沢鳳雛塾
- インターネット市民塾
- 高校生へのリーダーシップ育成 (ダイヤモンド社からの委託)
- ファミリービジネス研究

Yoshinori Isagai 23

Isagai Lab

学生による大方高校での授業



Yoshinori Isagai 24

Isogai Lab.

学生による牛津高校での授業



Yoshinori Isagai 25

Isogai Lab.

学生による新宮高校での授業



Yoshinori Isagai 26

Isogai Lab.

高知県黒潮町でのプロジェクト




Yoshinori Isagai 27

Isogai Lab.

活動の紹介

- 今まで紹介いただいた本
 - 『地域情報化の最前線』岩波書店
 - 『地域情報化』NTT出版
 - 『情報通信白書』ぎょうせい
 - 『ウェブがつくる新しい郷土』講談社
- 今までの活動が本に！
 - 『「元気村」はこう創る一実践・地域情報化戦略』日本経済新聞社



Yoshinori Isagai 28

Isogai Lab.

人材育成のプラットフォーム

Yoshinori Isagai

Isogai Lab.

コミュニケーションパタン

コミュニケーション手段	メンバー	
	コア	一般
フェイス・トゥ・フェイス	週1回、2時間	ほとんどなし
電話	週2回程度	ほとんどなし
電子メール、掲示板	週3回程度	月2回程度

Yoshinori Isagai 30

弱い紐帯と強い紐帯

- 弱い紐帯の強さ
 - 弱い紐帯が情報アクセスのためのブリッジになり、新しい異質な情報が流通 (Granovetter, 1973)
- 強い紐帯の強さ
 - メンバー間で交換が促進される、信頼が構築されやすく機会主義を抑制できるなどの理由から強い紐帯が効果的と主張 (Uzzi, 1996)。その他 (Krackhardt, 1992)
- 両方の共存
 - 企業のネットワークを分析し、埋め込まれた紐帯 (embedded ties) と市場取引的紐帯 (arm's length ties) とに分けて、効果的なネットワークを分析し、融合されたネットワークが最も効果的 (Uzzi, 1997)

(参考) Granovetter, M. "Strength of Weak Ties," *American Journal of Sociology*, Vol. 78, 1973, pp.1360-1380.
Uzzi, Brian "The Sources and Consequences of Embeddedness for The Economic Performance of Organizations : The Network Effect," *American Sociological Review*, Vol.61, Issue 4, 1996, pp.674-698, Krackhardt, David
"The Strength of Strong Ties: The Importance of Philos in Organizations," Noria, Nitin and Eccles, Robert G. (ed.)
Networks and Organizations: Structure, Form, and Action, Harvard Business School Press, 1992, Uzzi, Brian
"Social Structure and Competition in Interfirm Networks: The Paradox of Embeddedness," *Administrative Science Quarterly*, Vol.42, 1997, pp.35-67.

Yoshinori Iisagai 31

ネットワークの構造

	メンバー	人数	役割
コア	ほとんど不変	2~3名	方向性の提示、意志決定、組織・事業運営
サポーター	個人として参加 (ただし、異動などで交代することもあり)	数名	新事業情報提供、コアメンバーとともに運営参加、支援
一般	多様な人々 (サポーターになることもあり)	多数 (数十名以上)	事業参加

↓

強い紐帯と弱い紐帯の共存

Yoshinori Iisagai 32

サポーター誕生のプロセス

Yoshinori Iisagai 33

多様なインセンティブ

- コアメンバー
 - 地域活性化には人材育成が不可欠という思いを皆で共有できたことが支援が実現している要素
- サポーター
 - 起業家精神を育み、面白い人たちのコミュニティを形成するというコンセプトに共感。それ以上に、参加することが自分のネットワークを広げて、ビジネスにもつながるという期待
 - (映像編集)技術、ノウハウが生かせる場であり、面白いことが始まり、自分のやりたいことができるのが鳳雛塾。そのため、自分のために支援

Yoshinori Iisagai 34

オープンリソースの重要性

- コアメンバー
 - 鳳雛塾の資源である、組織・ネットワーク、ブランドをフルに活用してもらうように配慮
- サポーター
 - 積極的に事業に参加し、運営するようになったのは、オープンさ、支援をしよう、人と人をつなげようとする気持ちに報いるため。鳳雛塾では、ネットワークや知識など資源が自由に活用できるように配慮。オープンであるからこそ、支援をしてもらえるからこそ、活動可能
 - 自分がやりたいことを提案して、それができるように十分に支援してくれる、ネットワークを自由に使えるようにして、場を与えてくれていることが重要

Yoshinori Iisagai 35

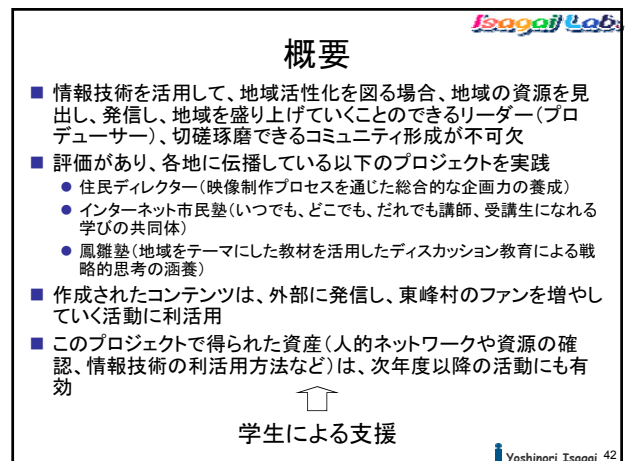
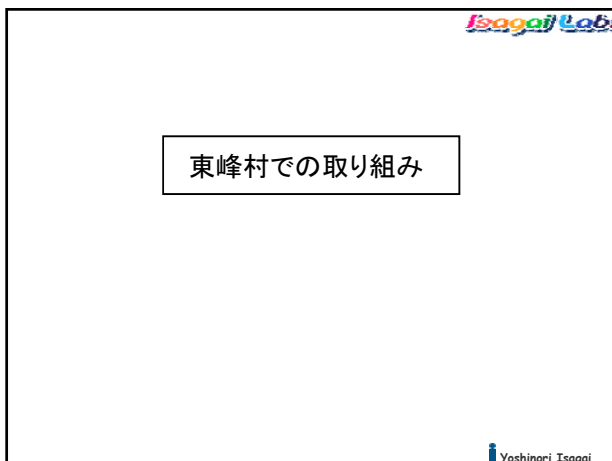
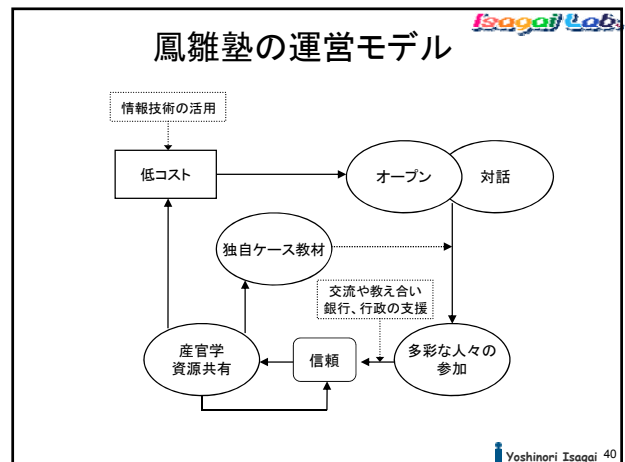
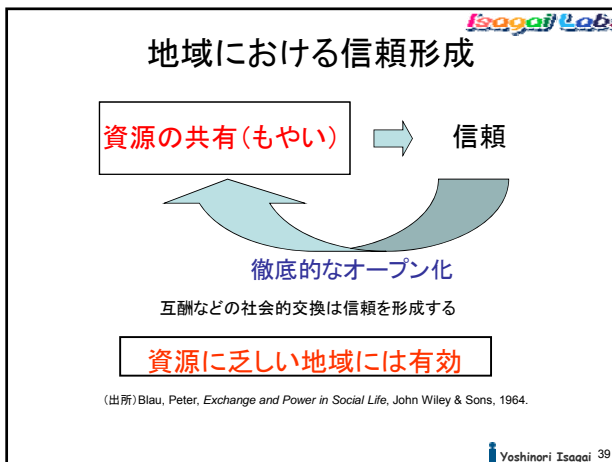
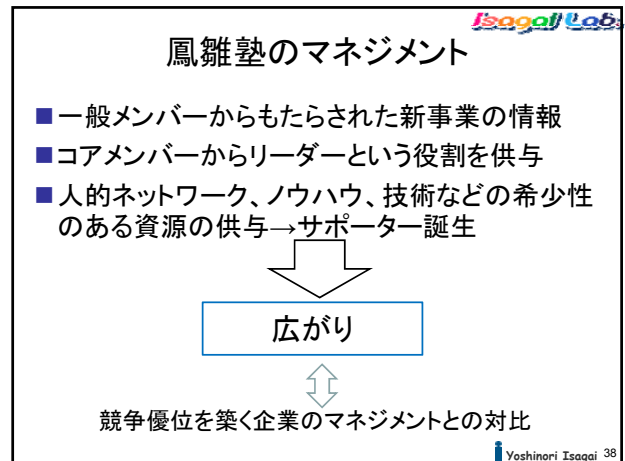
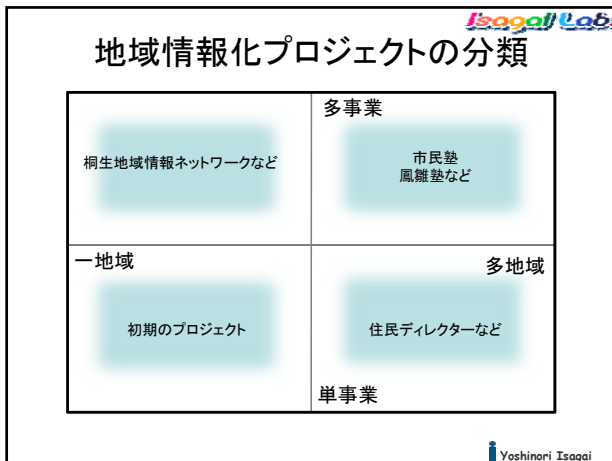
地域情報化プロジェクトの意義

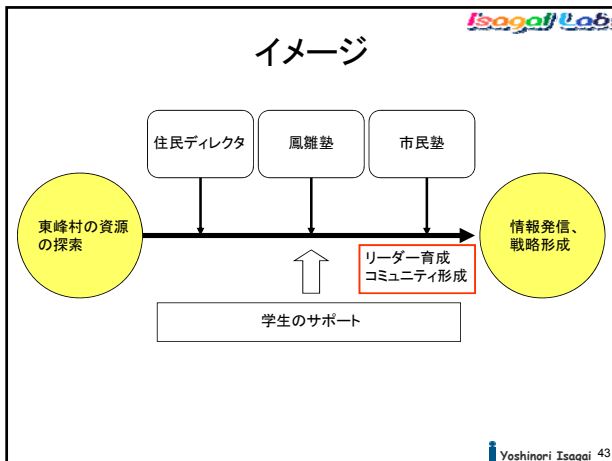
- 情報技術によるコミュニケーションによって多くの人々を参集し、そのつながりを維持しつつ、役割、資源を供与することによって、社会貢献を目指すソーシャル・アントレプレナー輩出のプラットフォームとして機能
 - 単に非営利組織のリーダーというわけではなく、ネットワークを次々と拡張し、優れたアイデアや人材という資源を取り込んで、より困難な課題を解決 (町田、2000)

↓

鳳雛塾の全ての新事業はサポーターが推進し、社会起業家へ (市民塾、住民ディレクター、桐生地域情報ネットワークなど他の地域情報化プロジェクトでも同様)

Yoshinori Iisagai 36

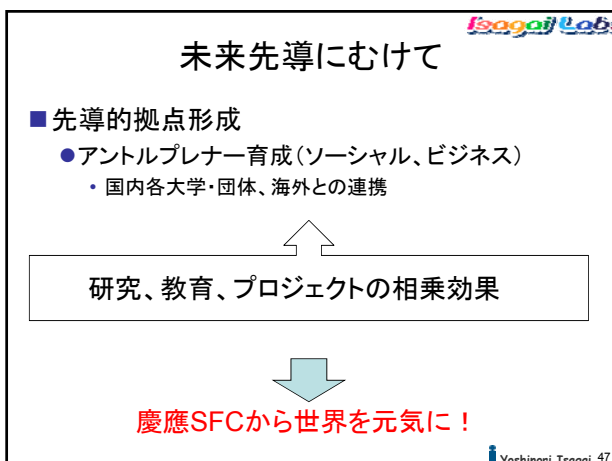




-
- 成果など**
- 東峰村活性化をテーマとしたコンテンツの開発
 - とうほう村民塾(東峰村に関するネット講座開講)
 - 住民ディレクター(東峰村を紹介する映像制作)
 - 慶應義塾150周年記念シンポジウムの開催
 - 国際化(観光、特産物販売)への進化
 - 慶應SFCの英語の教員の参加
- ↑
- 一連の活動の中で、村民間に新しいつながりが形成され、まちづくりのリーダーが生まれ、村の方々の主体的活動が実現
- Yoshinori Isagai 45

今後の展開

Yoshinori Isagai



- ご参考(地域情報化論内容)**
- 第1回: ガイダンス
 - 第2回: 地域情報化の概念
 - 第3回: 地域情報化政策の動向(総務省: 中田氏)
 - 第4回: eラーニングによるコミュニティ形成(市民塾: 柵氏)
 - 第5回: アントルプレナー育成と地域経済活性化(鳳雛塾: 横尾氏)
 - 第6回: 映像制作とひとづくり(住民ディレクター: 岸本氏)
 - 第7回: ネットワークに関する理論研究
 - 第8回: 情報技術とまちづくり(桐生地域情報ネットワーク: 塩崎氏)
 - 第9回: 農産物のマーケティング
 - 第10回: 中小企業ネットワークの形成
 - 第11回: 新たなつながりの形成(ひよこむ: 和崎氏)
 - 第12回: 地域情報化プロジェクトの実践(東峰村: 小林氏)
 - 第13回: まとめ
- Yoshinori Isagai 48

